

トヨタ自動車株式会社 略年表

1897	豊田佐吉、木製動力織機を発明。翌年、特許取得。
1918	豊田佐吉、豊田紡織株式会社を設立
1926	豊田喜一郎ら、無停止杼換式自動織機を完成。のちの G 型織機
1926	豊田自動織機製作所を設立
1929	豊田喜一郎、アメリカの自動車工場を視察
1933	豊田自動織機製作所に自動車部が発足。喜一郎が主導
1935	A1 型乗用車の試作第 1 号が完成
1936	AA 型乗用車の生産開始、同年に発売
1936	豊田自動織機、自動車製造事業法の許可会社に指定される
1936	豊田喜一郎、「ジャスト・イン・タイム」を提案し、刈谷工場に導入
1937	トヨタ自動車工業株式会社を設立。社長は利三郎、副社長は喜一郎
1949	大野耐一が機械工場長に。機械の 3~4 台持ち（多台持ちを拡大）
1950	豊田英二常務と斎藤常務がフォード社ルージュ工場を見学（3 か月と 1.5 か月）
1950	7 月 第 1 次朝鮮特需 1000 台、8 月 第 3 次特需 2329 台
1951	第 4 次特需 1350 台
1954	機械工場でスーパーマーケット（後工程引取り）方式を試行。大野取締役
1955	通産省が「国民車育成要綱案」を発表
1956	世界銀行から 235 万ドルの借款。輸入機械の購入資金に
1959	元町工場（乗用車専用）稼働開始。1960 年クラウン（1500cc）を月産 15000 台
1960	ワシントン輸出入銀行から 1200 万ドルの借款
1961	5 月 通産省が 63 年春からの乗用車輸入自由化のため「乗用車 3 グループ化構想」を発表
1961	6 月 パブリカ（697cc）を発売。国民車構想に対応。
1963	かんぱん方式を社内の全工場で採用
1963	多工程持ちを導入
1962	日産追浜工場完成：日産の乗用車専門工場
1965	完成乗用車の輸入自由化
1966	外注部品の全仕入先にかんぱん方式を採用
1966	カローラ（KE10 型、1100cc）を発売。高岡工場で月産 2 万台
1968	年産 100 万台を達成
1970	堤工場操業開始。カーリーナ、セリカの専用工場。年産 200 万台をめざす。
1973	石油ショック 原油価格 1 バレル 11 ドルへ
1974	UAW（全米自動車労組）が対米輸出自主規制を日本に要望。
1976	年間輸出 100 万台を達成
1979	第 2 次石油ショック。原油価格 1 バレル 34 ドルへ
1981	乗用車の対米輸出自主規制を開始。年間 168 万台
1982	トヨタ自動車株式会社が発足。トヨタ自工とトヨタ自販が合併。
1983	ホンダがオハイオ工場の完成式（日本初の在米生産）。アコード年産 15 万台をめざす
1984	GM との合弁会社 NUMMI を設立（折半出資）。シボレー・ノバを GM に供給
1986	TMM（Toyota Motor Manufacturing, USA）設立。88 年から年産 20 万台予定
1986	9 月 NUMMI でトヨタ車の生産開始。カローラ FX
1997	10 月 初代「プリウス」発売。（95 年 11 月 HS 搭載の 0 次先行車）
2008	世界新車販売台数でトヨタ（13.0%）が GM（12.1%）を超え世界首位に。

出所)『創造限りなく トヨタ自動車 50 年史』1987 年